

境港市小中学校再編計画

(素案)

令和7年12月

境港市教育委員会

目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 小中学校の現状	2
3. 学校再編の意向	5
4. 児童生徒数の将来推計	19
5. 学校再編スケジュール	21
6. 学校再編計画	22
《参考資料》建設費用の目安と事例	26

1. 計画策定の趣旨

平成28年5月、今後の少子化による児童生徒数の減少、新たに追加された校種「義務教育学校」による小中一貫教育への取り組みなど、展望を持った教育環境の整備を計画的に進めていくため、教育委員会から境港市校区審議会に諮問しました。

審議会では、2年間計10回にわたり審議を行い、諮問された「将来の児童生徒数減少に対応した小中学校の編成の方向について」に対し、平成29年10月に以下の答申を行いました。

- (1) 「小中一貫校」を開設することが望ましい。
- (2) 「義務教育学校」について検討することが望ましい。
- (3) 「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を目指すことが望ましい。

この答申を受け、教育委員会では、まずはコミュニティ・スクールに取り組み、学校毎ではなく、中学校区で実施することとしました。令和元年度に第一中学校区、令和2年度に第三中学校区、令和3年度に第二中学校区と段階的に導入し、学校・家庭・地域が互いに協働・連携して、地域の未来を担う子ども達の成長を支えていくことを目指し、3校区でそれぞれ特色ある取組を展開しています。

学校再編に向けては、令和5年5月に市内の関係課で、境港市小中学校再編ワーキングチームを設置し、本市で育つ子どもたちにとって、より良い学びの環境を整えるため、学校再編により生じる課題の整理等のソフト面、施設・跡地利用等のハード面について、検討を進めました。

学校再編は学校だけの問題でなく、地域から切り離すことが出来ない問題であるため、令和5年度に自治会を対象に「境港市小中学校の未来の姿について一緒に考える座談会」を開催し、様々なご意見をいただきました。また、令和6年度には教職員、保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を行い、様々な立場での学校再編についての考えを伺いました。

今年度、先進地視察として、5月20日と21日の2日間で、東京都の八王子市と三鷹市を訪問しました。八王子市ではいずみの森義務教育学校と学びの多様化学校である高尾山学園、三鷹市では、分離型の小中一貫校について伺うため、三鷹市教育委員会の3ヶ所を訪問しました。また、9月30日には、広島県福山市の義務教育学校の想青学園を訪問し、義務教育学校のメリット・デメリットなど、学校再編に向けて参考となる意見を伺うことができました。

これまで取り組んできたことから、本市において、誰一人取り残さない教育の実現と個別最適な学びの充実を図る教育の変革期に応じて、教育委員会として、学校再編計画策定に向けて、素案を作成しました。

今回作成した学校再編計画の素案をもとに、市民の皆様と多くの議論を交わし、子どもたちの学びや成長を第一に考えた学校づくりを目指し、今後、再編計画をまとめてまいります。

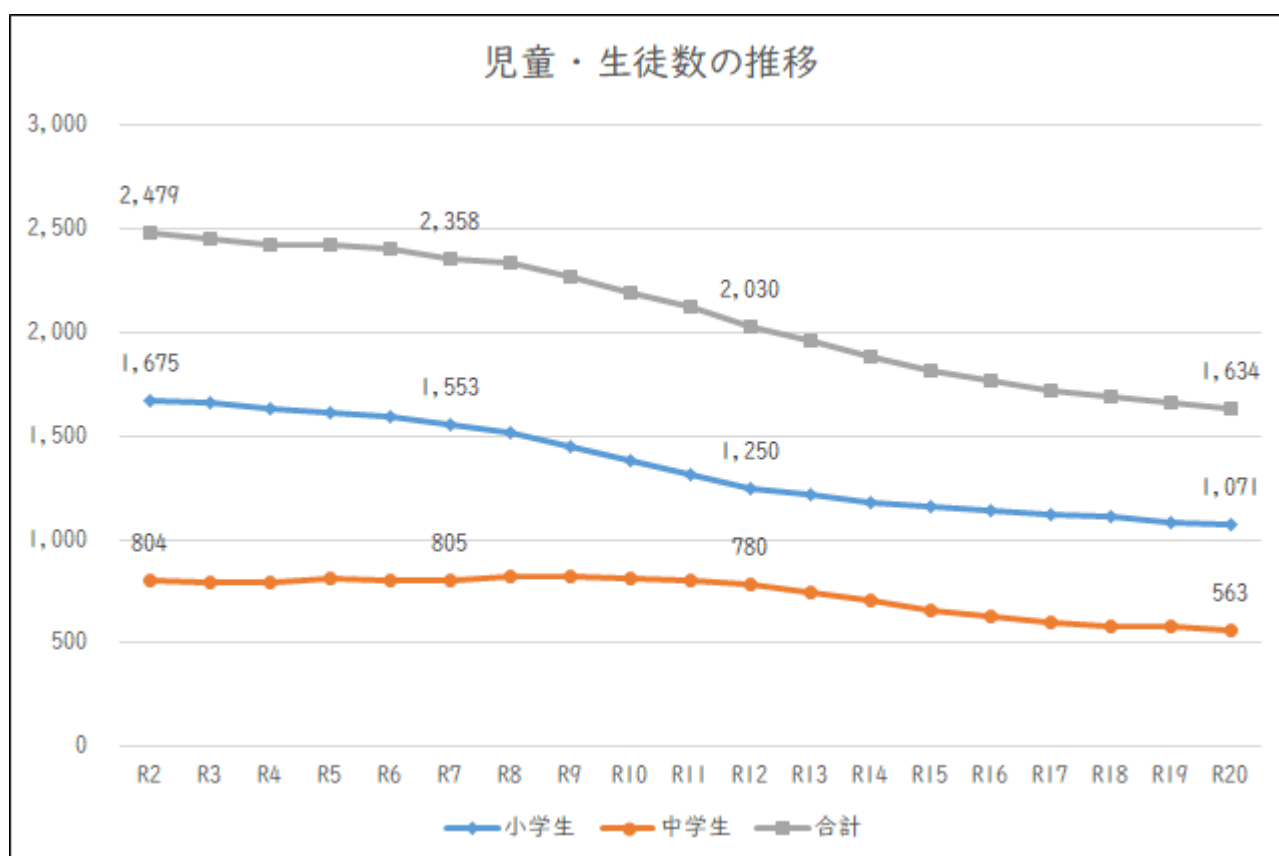
2. 小中学校の現状

【児童・生徒数】

本市の児童・生徒数は、令和7年度では、2,358人（小学生1,553人、中学生805人）で、5年前の令和2年度と比較すると、△121人（小学生△122人、中学生1人）となっており、年々減少が進んでいます。

5年後の令和12年度では、令和7年度と比較して△328人（小学生△303人、中学生△25人）となり、児童・生徒数の減少がさらに加速していきます。

新しい学校始動期にあたる令和20年度では、令和7年度と比較して、△724人（小学生△482人、中学生△242人）となり、現在の学校数（小学校6校、中学校3校）で単純に割ると、小学校は1校あたり約179人、中学校は1校あたり188人となり、小学校は各学年1クラス、中学校は各学年2クラスとなり、小学校ではクラス替えが難しい状況となっていくことが予想されます。



※令和8年度以降は、推計値

【学校数】

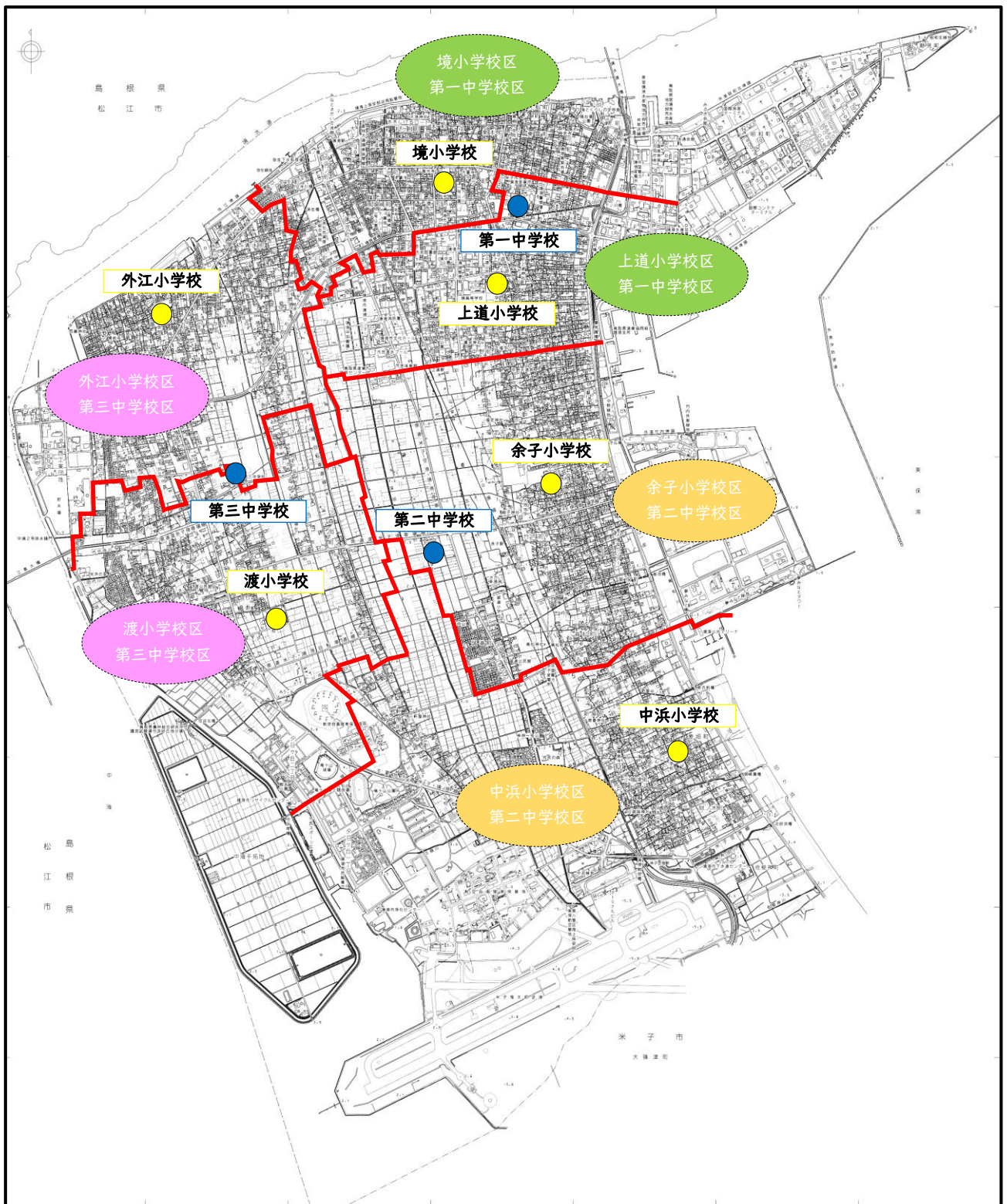
本市は、昭和50年頃からの人口増加傾向を受け、昭和58年4月に誠道小学校を、昭和60年4月に第三中学校を開校し、市内で7小学校、3中学校体制となりました。しかし、平成17年以降、人口減少幅が大きくなり、特に誠道地区では児童数が大きく減少し、将来大きな増加が見込めないことから、境港市校区審議会の答申を受け、令和2年3月をもって誠道小学校を閉校とし、現在の6小学校、3中学校の体制となっています。

《現在の小中学校》

小 学 校		中 学 校	
①	渡小学校	①	第三中学校
②	外江小学校		
③	境小学校	②	第一中学校
④	上道小学校		
⑤	余子小学校	③	第二中学校
⑥	中浜小学校		

※校区ごとに記載

小学校・中学校 配置図



3. 学校再編の意向

(1) 自治会との意見交換会

地域の核となる自治会の方と一緒に考える場を設定。

○「境港市小中学校の未来の姿について一緒に考える座談会」意見の数

質 問 内 容		渡 公 民 館	外 江 公 民 館	境 公 民 館	上 道 公 民 館	余 子 公 民 館	中 浜 公 民 館	誠 道 公 民 館	合 計
1	再編、統合について	5	5	18	1	3	2		34
2	小学校と地域コミュニティの関係		10	4	1	9	5		29
3	義務教育学校と小中一貫校の違い		5	3		1	1	11	21
4	通学距離が長くなることへの不安	6	3	2	1	4	3		19
5	検討や議論の時期等	2	1	6			2	2	13
6	建物、土地、費用等		2	3	2		1	3	11
7	若い世代からの意見やアンケートの実施			4	1		1	2	8
8	クラス替えについて			1		3	1		5

○「境港市小中学校の未来の姿について一緒に考える座談会」での主な意見

■令和6年2月19日（月）19:45～ 中浜公民館（参加者：9人）

- ・何年先まで見て考えれば良いのか。一度変更したらそのままなのか。
- ・校舎の工事期間（増築・改築・新築）の間の児童生徒の教育環境はどうなるのか。
- ・統合を考えると同時にスクールバスなどの登校手段を検討してほしい。
- ・クラス替えは必要なのか。必ずしもクラス替えに固執しなくても良いのでは。
- ・資料が、小学校を減らしても問題ないと言いたいためのデータになっている。
- ・少子化ありきで進めるのはどうなのか。
- ・もっと若い世代に聞いた方が良いのでは。

■令和6年2月21日（水）19:30～ 余子公民館（参加者：7人）

- ・統合するのであればスクールバスをセットで考えるべきだと思う。
- ・小学校ごとに地区があって、その地区単位でそれぞれ活動している。小学校が統合されることで、今まで独自に活動していた地区が1つになって活動するのは違和感がある。
- ・地域との関わりがあることで、子どもたちに多様性が生まれると思う。

- ・やはり子どもが近所にいないというのはずいぶんとさみしい。
- ・先行きの見えない時代に対応できる学校づくりを。
- ・再編ありきの話も良いが、目指すべき方向性など、先に考えるべきことがあるのでは。検討する上で必要な知識の蓄積もできているのか。
- ・学校の再編の検討には、現場の教員も巻き込んでいく必要があると思う。

■令和6年2月26日（月）19:30～ 誠道公民館（参加者：8人）

- ・義務教育学校と、現在の小学校6年、中学校3年の義務教育とはどう違うのか。
- ・義務教育学校は、小中一貫校とはどう違うのか。
- ・我々ではなくて、各校区のお子さんを持つ方などに説明しないといけないのでは。
- ・子どもがどう思うかも考えてあげないといけないのではないかなと思う。
- ・校舎が建てられてから年数も建っているし、これから長く使うことを考えると、新しい建物を建てるべきではと思うが、予算的に難しいのか。
- ・誠道小学校が廃校になった時の反省をふまえて進めていってほしい。

■令和6年2月27日（火）17:00～ 上道公民館（参加者：9人）

- ・再編計画の方向性が決まるのはいつ頃になるか。
- ・4つのパターンを提示されたが、市の意向としては、どうしたいという考えなのか。
- ・結構遠くから通学する人もいて、朝早くて、夜は遅くなるので、冬の時期などは暗い中をずっと一人で歩いて帰るようになる。授業時間を短縮して終業時間を早めるとかそういう考えはあるのか。
- ・小中一貫校になると、校舎は9学年分の教室が必要になる。グラウンドも小学生世代と中学生世代の2つ、別々に確保できる土地が必要になる。そういったことは物理的に可能なのか。
- ・すでに統合を行っている学校を参考にして、検討しては。
- ・地区によって、再編に対する考え方に違いがあるのでは。
- ・小学校は子どもたちを育てる場であると同時に、大人を育てる場でもある。
- ・各学校の校舎の老朽化を理由に再編を進めてはどうか。
- ・初めにアンケートを実施してはどうか。
- ・自治会の代表として座談会に参加しているが、我々の意見が地区の人の意見とは限らない。

■令和6年2月28日（水）15:30～ 境公民館（参加者：7人）

- ・小中一貫校と義務教育学校との違いをもうちょっと丁寧に説明してほしい。
- ・学校再編について、市長の考え、教育長の考えはどうなのか。向いている方向は一緒なのか。
- ・義務教育学校への移行などで、通学距離の問題が出たりするなら、スクールバス等

で対応せざるを得ないと考えている。

- ・子どもたちのためにこうしてあげたいというのがはっきりしない。
- ・市の方も、お金の問題をきちんと示すべきだと思う。
- ・各学校の距離を考えると、3つくらいの範囲に分けるのが良いのではないか。
- ・個人的には、15年先をみると、一中、二中、三中が1つになって二中のある場所に設置すれば良いと思う。あとは幼稚園や保育園も二中のある場所に全部持っていけば、教育機関が1つの場所で済むと思う。
- ・誠道小学校が廃校になった誠道地区では、地域が疲弊している。
- ・学校再編と地域の再編はつながっている部分はあるが、やはり完全に分けて考えないと進まないと思う。
- ・6つの学校を生かすために、子ども1人あたりを育てるのに必要な予算がどれくらいになるのか。それが境港市民が納める税金の何%を占めるのか。そういうことを考えると、もうこの時代、改修して6つの小学校を残すというより、前向きに義務教育学校などに移行せざるを得ない。
- ・15年もかける必要があるのか。15年は本当に長い。こんなに長い時間があると、途中で話がころころ変わるし、議論もだらだらとなってしまう。
- ・誠道も含め小学校区ごとにある7地区を、今の7地区のままにすることが適正なのかどうかも議論する必要があるのではないか。

■令和6年3月5日（火）19:30～ 外江公民館（参加者：8人）

- ・義務教育学校が、鳥取県は特に多いが、それらの学校はどのような経緯で義務教育学校に変わったのか。
- ・義務教育学校では、小学校と中学校の6年・3年のフレームだけでなく、発達段階の違いなどで、フレームを柔軟に変更できるということだが、それは小中一貫校ではできないのか。
- ・資料では、市からの提案という形で、「2中学校校区：南北学園構想 一体型義務教育学校」と「小学校6校中学校1校の分離型小中一貫校」の案のみが出ているが、そちらの方向でのみ考えているのか。
- ・以前、定例教育委員会の議事録を読んだときに、誠道小学校が余子小学校に統合して、そこから5年くらいを目安に、二中との統合のタイミングで、中浜小学校を含めて一貫校を作るみたいな青写真があると書いてあったが、その他の地区についても、そのような青写真があるのか。
- ・小学1、2年生までは、通学距離についてもう少し配慮が必要なのではと思う。
- ・小中一貫校か義務教育学校にするという方向に進まないといけないのなら、もう早めに検討した方が良いのではないかと思う。
- ・コミュニティ・スクールの活動は、三中校区では小学生と中学生が一緒に中学校で授業を行うというところまで進んだ。まだまだ課題は多いが、中学校にみんなが

集まって活動していけたら良いのではと考えている。

- ・地域から子どもたちがいなくなるというのもちよっとどうかなというのものもある。
- ・コミュニティの成熟度によって統廃合の順番が決まるというのはどうか。
- ・学校の児童生徒数が減って廃校になる前に、自治会や町の方が先につぶれるのではないかと考えている。

■令和6年3月9日（土）19:00～ 渡公民館（参加者：17人）

- ・文部科学省の通学距離の許容範囲の目安で、小学校は4kmとなっているが、遠いのではないか。
- ・いきなり新しい情報が出てきて、ショックが大きい状態。今後、意見を幅広く集めて考えていけたらと思う。
- ・15年というのは考えてみるとあっという間。そういう意味では今からどうするか考えていくということがすごく大事だと思う。
- ・学校を統合した場合の使用しなくなった校舎の利活用について、防災とタイアップして、避難場所として整備出来たらと思う。
- ・学校を統合した後の校舎を何らかの形で再利用するとなると、その維持は財政的には相当負担になっていくのではないか。古いものは壊していく、減らしていくということも必要になる。
- ・小学校6校をこれから維持しようとしても無理だろうなという感じがする。
- ・国も県も市も人口減少対策について色々なことを考えていると思うが、おそらくV字回復していくというのはまずないので、どう減少速度を緩やかにしていくかということになる。どちらにしても学校の再編を考えていくことは必要。
- ・学校再編について、全国的には以前から取り組んでいるところがあると思う。そういうところの現状を把握して、できるだけ失敗が少ないようにできたらと思う。

(2) 教職員との意見交換会

実際の教育現場で働く小学校、中学校の教職員の方と一緒に考える場を設定。

各中学校区での「学校再編に係る教職員との意見交換会」

- ・ 令和6年11月21日（木）15:00～16:30 第三中学校
- ・ 令和6年12月10日（火）15:00～16:30 第二中学校
- ・ 令和6年12月25日（水）10:00～11:30 第一中学校

※終了後、アンケート調査を実施

(3) 「未来の学校」アンケート

小学校5年生、6年生、中学生を対象にアンケートを実施。

(4) 学校再編に係る保護者との意見交換会

小中学生の保護者の方と一緒に考える場を設定。

- ・ 令和7年2月6日（木）19:00～20:00 第一中学校
- ・ 令和7年2月7日（金）19:00～20:00 第二中学校
- ・ 令和7年2月10日（月）19:00～20:00 第三中学校

※終了後、アンケート調査を実施

■ アンケート結果

	教職員 (熟議参加者)	児童生徒 (小学5年生以上)	保護者 (意見交換会参加者)
対象者	158人	1,354人	29人
回答数	116人	897人	7人
回答率	73.4%	66.2%	24.1%

【設問 1】

あなたは、学校再編の 4 つの案の中で、どれが一番いいと思いますか。

- ① 6 つの小学校と 3 つの中学校
- ② 各中学校区に 1 つの学校（2 つの小学校と中学校が一緒に学習する学校）
- ③ 2 つの学校（小学校と中学校が一緒に学習する学校）
- ④ 小学校 6 校と 3 つの中学校を 1 つにあわせた中学校
- ⑤ その他

	教職員		児童生徒		保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①	6人	5.2%	453人	50.5%	0人	0.0%
②	54人	46.6%	206人	23.0%	2人	28.6%
③	21人	18.1%	101人	11.3%	3人	42.9%
④	19人	16.4%	120人	13.4%	2人	28.6%
⑤	16人	13.8%	17人	1.9%	0人	0.0%
合計	116人	100.0%	897人	100.0%	7人	100.0%

教職員は「②各中学校区に 1 つの学校」が、児童生徒は「① 6 つの小学校と 3 つの中学校」が、保護者は「③ 2 つの学校」が最も多い結果となった。

【設問 2】

学校の規模について、各学年に何学級あるといいと思いますか。

- ① 1 学級 ② 2 学級 ③ 3 学級 ④ 4 学級 ⑤ 5 学級以上

	教職員		児童生徒		保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①	2人	1.7%	34人	3.8%	0人	0.0%
②	40人	34.8%	203人	22.6%	1人	14.3%
③	55人	47.8%	455人	50.7%	3人	42.9%
④	15人	13.0%	122人	13.6%	0人	0.0%
⑤	3人	2.6%	83人	9.3%	3人	42.9%
合計	115人	100.0%	897人	100.0%	7人	100.0%

教職員、児童生徒、保護者とも「③ 3 学級」が最も多い結果となった。

【設問3】

学校の仕組みについて、どれが一番いいと思いますか。

- ①現状と変わらない小学校・中学校
- ②小中一貫校
- ③義務教育学校

	教職員		児童生徒		保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①	20人	17.5%	649人	72.4%	1人	16.7%
②	59人	51.8%	248人	27.6%	2人	33.3%
③	35人	30.7%			3人	50.0%
合計	114人	100.0%	897人	100.0%	6人	100.0%

※児童生徒には、「①現状と変わらない小学校・中学校」か「②小学生と中学生が一緒に学習したり生活したりできる学校」の2択で設問

教職員は「②小中一貫校」が、児童生徒は「①現状と変わらない小学校・中学校」が、保護者は「③義務教育学校」が最も多い結果となった。

【設問4】

あなたは、未来の学校について考えることに興味がありますか。

- ①ある
- ②どちらかといえばある
- ③どちらかといえない
- ④ない

	教職員		児童生徒		保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①	31人	27.0%	210人	25.1%	1人	14.3%
②	72人	62.6%	324人	38.7%	5人	71.4%
③	11人	9.6%	194人	23.2%	1人	14.3%
④	1人	0.9%	109人	13.0%	0人	0.0%
合計	115人	100.0%	837人	100.0%	7人	100.0%

教職員、児童生徒、保護者とも「②どちらかといえばある」が最も多い結果となった。

【設問 5】

もしも新しい学校を創るとしたら、学校にあればいいと思うものは何ですか。
(教職員)

カテゴリー名	件数	割合 (%)	備 考
多様な児童生徒への支援	18件	23.7%	不登校支援、個別対応部屋、リモート授業 教室に入れない子や不登校に対する柔軟な環境整備 誰一人取り残さない学びの実現
施設・設備の充実	15件	19.7%	冷暖房完備の体育館、エレベーター、ICT設備 快適さ・バリアフリー・ICT環境の整備 快適かつ現代的な学習・生活空間の確保
地域とつながる学校	12件	15.8%	公民館併設、地域交流スペース、地域図書館 地域と子どもの相互交流、学校の公共的機能の強化 地域に開かれた持続可能な学びの場づくり
学びの多様化・柔軟性	11件	14.5%	選択学習、オープンスペース、専科教室 一斉授業だけでなく個別・グループ学習も想定 子どもの主体性・得意を活かす学びの設計
人的資源・スタッフの充実	10件	13.2%	多様な大人の関与、心理士、地域ボランティア 教員だけでなく多職種の連携・支援体制を想定 支援の厚みを増し多様な子どもに対応
安心・安全の確保	8件	10.5%	防犯カメラ、SNS対応部署、常駐警備 物理的安全・心理的安全・現代の問題への対応含む 子どもと教職員が安心して過ごせる環境づくり
その他	2件	2.6%	雑談スペース、北欧モデルの参考 独自性のある視点や構想的提案 学校の未来像や構造変革を見据えたアイデア

(児童生徒)

カテゴリー名	件数	割合 (%)	備 考
バリアフリー・移動支援設備	236件	26.3%	エレベーター、エスカレーター、スロープ 障害のある人のための設備、重い荷物用設備 階段をなくすなど
食事・購買関連施設	168件	18.7%	食堂、購買、売店 コンビニ、自販機、ドリンクバー 弁当屋、マックやスタバなど
体育・運動設備	137件	15.3%	体育館の増設、グラウンド スポーツ施設 (テニスコート、プール、サッカー場、野球場など)
学習支援・ICT・設備充実	118件	13.2%	図書館、自習室 Chromebook、電子黒板 プロジェクター、タブレット、Wi-Fiなど
休憩・交流・癒しの空間	91件	10.1%	リラクセススペース、仮眠室 個室、児童相談所 みんなで話せる部屋、静かな空間など
ルール・制度・その他ソフト面	82件	9.1%	校則緩和、校内行事の自由 部活の多様化、生徒会制度 意見を出せる仕組みなど
その他(遊具・娯楽・希望的提案)	65件	7.2%	遊具、動物、ゲーム室 ロボット、ジェットコースター 映画館、ライブなど非現実的だが希望として挙げられた内容

（保護者）

カテゴリー名	件数	割合 (%)	備考
食・給食環境の充実	3件	37.5%	フードコート型の給食スペース 配膳負担の軽減 みんなで楽しく食べる空間
心のケア・相談環境	1件	12.5%	人数が多くなっても相談できる人や場所が必要
地域とつながる場	1件	12.5%	地域の方が自然に集まれる場所の設置
学校の仕組み・制度の柔軟性	1件	12.5%	保護者・教員・子どもが共に考えて創る学校システムが大切
教育環境・設備の工夫	1件	12.5%	壁がホワイトボード化されていて自由に書ける環境
その他	1件	12.5%	「生きることを学べる環境」など抽象的・理念的な表現

【設問6】

もしも新しい学校を創るとしたら、どんな教室やスペースがあればいいと思いますか。

（教職員）

カテゴリー	件数	割合 (%)	備考（代表的な要素3つ）
スペース（学習・生活）	16件	26.7%	多目的教室 フリースペース クールダウン室
設備（ICT・可動性）	11件	18.3%	ICT環境（Wi-Fi等） ホワイトボード 可動式パーティション
公共・地域連携	7件	11.7%	地域交流スペース ボランティアルーム 共有図書館
体育施設	7件	11.7%	冷暖房体育館 自由運動スペース トレーニングルーム
音楽・芸術施設	6件	10.0%	音楽室（防音） 図工室 ホワイトボード壁の創作空間
民間・企業連携	5件	8.3%	動物セラピー空間 外部専門家ルーム 民間交流スペース
その他（支援・安全等）	8件	13.3%	特別支援教室 ユニバーサル設備 教職員ミーティングルーム

（保護者）

カテゴリー	件数	割合（％）	備考（代表的な要素３つ）
学習支援スペース	3件	37.5%	特進クラス、自主学习スペース 探究・制作継続ができる多目的室 イケてる自学スペース
コミュニティ・交流空間	2件	25.0%	学年間で使える交流スペース 放課後は塾やカルチャースクールとして開放
快適・リラックス環境	2件	25.0%	リラックスできる休養室やくつろぎスペース 整理整頓しやすい大きめロッカーや広いデスク
安全・健康への配慮	1件	12.5%	Wi-Fiなどの電磁波を避けた教室設計など
その他（理念・抽象的アイデア）	0件	0.0%	該当なし

【設問７】

新しい学校になる場合、心配なことはありますか。

（教職員）

カテゴリー	件数	割合（％）	備考
教員・職員数の確保・免許	32件	25.6%	教員不足の懸念 免許の不安（小中対応） 人員配置の心配
地域との関係・地域の反応	24件	19.2%	地域連携の弱まり 地域住民の反対 学校が地域から消える影響
通学距離・交通手段・安全	20件	16.0%	通学距離の長さ 交通手段（バス等） 登下校の安全性
教育内容・文化・行事のすり合わせ	16件	12.8%	小中の文化差 行事の統一 教育課程の準備
予算・施設・設備面	14件	11.2%	予算の確保 校舎・敷地の懸念 ICTや設備の充実
児童生徒・保護者の不安	12件	9.6%	新環境への不適應 人間関係の固定化 子どものストレス
その他	7件	5.6%	特になし わからない 考え中

(児童生徒)

カ テ ゴ リ 名	件 数	割 合 (%)	備 考
通学距離・交通の不安	412件	45.9%	通学距離が長くなる 交通機関が心配 登下校が大変になる
人間関係・トラブルの不安	157件	17.5%	トラブルが起きそう いじめが増えるかもしれない 知らない人との関係が不安
学習・生活環境の変化	114件	12.7%	環境の変化に不安 授業に集中できるか 慣れるのが大変
小中一貫への不安	78件	8.7%	小学生と中学生が一緒にすることに抵抗 成長段階の差が心配 干渉される不安
規模の大きさによる不安	56件	6.2%	人数が多すぎる 騒がしくなる 目が行き届かない
特に不安はない	48件	5.4%	特に心配していない 今のままでよい 問題は感じない
その他	32件	3.6%	建物の老朽化 コストや税金の問題 その他個別の懸念

(保護者)

カ テ ゴ リ ー	件 数	割 合 (%)	備 考
通学に関する心配	2件	25.0%	通学距離が長くなること 交通機関に関する心配
校内のトラブル・教育環境	1件	12.5%	トラブルの多様化
現時点では特にない／様子見	5件	62.5%	「今は特にない」「イメージがわからない」「なし」など

【設問 8】

あなたがめざす未来の学校はどんな姿ですか。

(教職員)

カ テ ゴ リ ー	件 数	割 合	備 考
安心・安全・快適な環境	41件	23.8%	子どもも大人も安心して、元気に過ごせる場所 明るく軽い心で登校の準備ができる学校 誰一人取りこぼさない
主体的・多様な学び	32件	18.6%	子どもたちが自分で選んで学べる学校 勉強が苦手な生徒も自分に合った学び方を選べる 選択できる教育課程
地域との連携・開かれた学校	27件	15.7%	地域とともにある学校 地域の人が校舎内に溢れ関わる学校 地域の人が自由に出入りして子どもと関わる学校
未来社会を見据えた教育	24件	14.0%	社会とつながることのできる学校 考える力を育てる学校 子どもが資格・技能・能力を身につける学校
教職員の働きやすさ	19件	11.0%	教員には時間的・心理的余裕があり、子どもには安心感がある 教職員がワーク・ライフ・バランスの裁量を決められる 教員も楽しく働ける
異年齢・異校種・人との交流	16件	9.3%	異学年交流や異校種交流がある 小中高の連携を視野に入れた育成 児童が学年関係なく会話できる空間
その他	13件	7.6%	囲碁、書道、陶芸などをリモートで学べる ICTに頼らないふれあい重視 戦後失われた価値観の再興

(児童生徒)

カ テ ゴ リ 名	件 数	割 合 (%)	備 考
多様性・個別最適化	217件	24.2%	個々の成長に合わせた学習ができる学校 不登校や障がいのある子も認め合える場 多様な価値観を受け入れ合える空間
地域・人とのつながり	185件	20.6%	地域の人と交流できる 先生・保護者・地域が連携して関わる 境港の特色を生かした体験重視の教育
楽しく通える・前向きになれる学校	168件	18.7%	早く大人になりたいと思える学校 登校が楽しみになる学校 笑顔があふれる場
社会性や人間力の育成	122件	13.6%	社会で生き抜く力を育てたい 起業家を育てたい 他者との関わりを通じて成長できる
国・世界に誇れる学校	93件	10.4%	日本のモデルになる学校 世界基準で柔軟に対応できる教育 世界とつながる学び
教育環境・制度の改善	58件	6.5%	9年間の教育課程を見通した学び 学年の枠にとらわれない設計 新しい学校制度への期待
その他（表現が抽象的／判別困難など）	54件	6.0%	「楽しい学校」など明確な内容がない 個人的な意見のみで分類困難 単語のみの回答

（保護者）

カ テ ゴ リ ー	件 数	割 合	備 考
多様性・個別対応	2件	25.0%	多様化に応じた学びの場 不登校・発達障害の子も認め合える学校
地域との連携・地元愛	2件	25.0%	地域の人々との関わりを重視 地元への愛着や体験を通じた学び
未来志向・社会での活躍	2件	25.0%	起業家を育てたい 未来に希望を持てる子を育てたい
教職員・児童生徒の笑顔と安心	1件	12.5%	子どもも保護者も先生も笑顔で過ごせる学校
社会性・人間性の育成	1件	12.5%	人との関わりを大切にし、つながりを深める

（５）先進地視察

本市が検討している義務教育学校や小中一貫校の取り組みを行っている「先進地」を訪れ、成功要因や課題、具体的な取り組みを学んできました。

まず、第１回の視察では、再編の進め方や義務教育学校と小中一貫校の仕組みを学ぶため、義務教育学校を始めるにあたり、計画策定段階から学校・家庭・地域の関係者と合意形成を図り事業を進めた八王子市と、一体型ではなく分離型で小中一貫校を実施している三鷹市を視察しました。なお、八王子市では、全国的に年々設置校が増えている不登校の小中学生を対象にした、特別な教育課程を編成して教育を行う学びの多様化学校も合わせて視察しました。

次に第２回の視察では、義務教育学校での特色的な取り組みを学ぶため、２つの中学校と５つの小学校を統合して義務教育学校を開設し、柔軟な教育課程の編成や教科担任制を導入している福山市を視察しました。

■第１回先進地視察

日 程：令和７年５月２０～２１日

視察先：東京都八王子市 いずみの森義務教育学校

高尾山学園（学びの多様化学校）

三鷹市 三鷹市教育委員会（小中一貫校（分離型）について）

視察者：山本教育長、中田委員、十河委員（境港市教育委員会）

（８名）下西校長（第二中学校）、高濱校長（境小学校）、横田教頭（第一中学校）

築谷主査、角本課長補佐（境港市教育委員会事務局教育総務課）

八王子市・三鷹市 施設・取り組み等の感想①

安全な複合施設

学校・地域・保育園 それぞれの施設利用の動線も重ならない
図書館・プールも地域に開放



・地域に必要な誰もが使える施設

異学年交流

体育祭の準備をする中、明らかに違う学年の生徒同士が話す姿
校門付近で違う学年と思われるグループで談笑している様子



・異学年同士の子どもたちが、自然に関わる姿があり、子どもらしい社会性が育っている

20年を掛けて作り上げた仕組み

学校内にいつでも誰でも利用できる居場所
一人一人のレベルや習熟度に合わせたコース別授業
集团的・体験的な学習や活動の機会を多く取り入れる
コミュニケーションスキルを育成できる体制整備



・最も適した時期に適切な支援
・学校での体験を通して「生きる力」を身につけ社会に巣立つ

コミュニティ・スクールの先、スクールコミュニティ

学校や子どもたちをきっかけにできるコミュニティ
ユニークな取り組み 「焚火の会」



・CSは境港市も負けていない
・学校運営協議会委員は学校運営の当事者として関わる

八王子市・三鷹市 視察感想②

訪問場所	教育委員	教職員
義務教育学校 (八王子市立いずみの森義務教育学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・小1中1での「つまずき」が起きにくい ・9年間見守るので、支援で途切れがない ・1年生から9年生が活動を通してつながることによって自己肯定感の向上が感じられた 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に他者とつながる機会の大切さを感じた ・情報共有と実践を通して、徐々に一つの学校にまとまっていくための取り組みが必要
学びの多様化学校 (八王子市立高尾山学園)	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分に合った学び方」を選べるのが大事 ・その日の状態で学びの場を選べる環境 ・学校に行けない子が行ける学校があると家族にとっての心の支え ・まずは学校に行ってみようと考えさせる雰囲気ある仕組みに驚いた 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へ、社会性・学力のサポートを主に、福祉的、医療的な支援ができる体制を構築している ・学校・友達・教師・専門的な支援とつながる場として様々な活動が仕組まれている
小中一貫校(分離型) (三鷹市教育委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物とは別でも、教職員や教育内容を連携させる形なら、地域にも受け入れられやすい ・まずは小中の連携を深め、将来的に統合を考える「段階的な進め方」が現実的 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を目指すのなら、どのように小と小、小と中が連携して9年間の学習を組み立てるのか協議していくことが必要
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の仕組みよりも、「子どもが安心して通って学び続けられる環境」が一番大事 ・少子化が進むことで、小中一貫教育の必要性を感じた 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階での「境港市小中一貫教育カリキュラム」の作成が必要

■第2回先進地視察

日 程：令和7年9月30日

視察先：広島県福山市 想青学園（義務教育学校）

視察者：山本教育長、中田委員、十河委員（境港市教育委員会）

（11名）木下財政課長、池淵子育て支援課長、園山建築営繕課長、小林施設営繕係長（境港市小中学校再編ワーキングチーム）

北野課長、築谷主査、角本課長補佐、小板主任（境港市教育委員会事務局教育総務課）

想青学園 施設・取り組み等の感想

新教科「S O S E I 学」

- ・校区の歴史・文化、産業、自然等を素材に、児童生徒の発見や疑問に応じ、柔軟に展開する探究学習



- ・ふるさと学習を取り入れ、児童生徒自身が地域探求・地域創生に取り組んでいる

つながりとふれあいの生活空間

- ・普通教室から移動できるロッカー等を配置した「クラスブース」を併設し、いつでも子どもたちの居場所となる空間づくり



- ・教室の後ろに小さな部屋があり、授業中や様々な場面で、児童生徒が落ち着きを取り戻せる場所として活用

地域の人々との共創空間

- ・ふれあいルームやランチルームなど、地域との関わりの場の提供



- ・ランチルームが調理室に隣接してあることで、地域の方とのふれ合いの場となっている

4. 児童生徒数の将来推計（独自推計）

※令和20年の（ ）内はクラス数（鳥取県独自で、小学校は1クラス30人とした場合、中学校は1クラス1年生は33人、2、3年生は35人とした場合で算出）

【渡小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	34人	37人	27人	30人	32人	31人	17人	27人	26人	25人	25人	24人	23人	23人 (1)
2年生	44人	34人	37人	27人	30人	32人	31人	17人	27人	26人	25人	25人	24人	23人 (1)
3年生	38人	47人	34人	37人	27人	30人	32人	31人	16人	27人	26人	25人	24人	24人 (1)
4年生	52人	38人	48人	35人	38人	28人	31人	33人	32人	16人	27人	26人	25人	25人 (1)
5年生	49人	51人	38人	48人	35人	37人	27人	30人	33人	31人	16人	27人	26人	25人 (1)
6年生	56人	51人	51人	38人	48人	35人	37人	27人	30人	33人	31人	16人	27人	26人 (1)
合 計	273人	258人	235人	215人	210人	193人	175人	165人	164人	158人	150人	143人	149人	146人 (6)

【外江小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	35人	41人	29人	32人	24人	22人	32人	28人	28人	27人	26人	25人	25人	24人 (1)
2年生	36人	34人	42人	30人	33人	25人	23人	33人	29人	29人	28人	27人	26人	26人 (1)
3年生	38人	33人	34人	42人	30人	33人	24人	23人	33人	28人	28人	27人	26人	26人 (1)
4年生	46人	34人	33人	34人	41人	30人	33人	24人	23人	33人	28人	28人	27人	26人 (1)
5年生	34人	42人	34人	33人	34人	41人	29人	32人	24人	23人	33人	28人	28人	27人 (1)
6年生	36人	33人	42人	34人	33人	34人	41人	29人	32人	24人	23人	33人	28人	28人 (1)
合 計	225人	217人	214人	205人	195人	185人	182人	169人	169人	164人	166人	168人	160人	157人 (6)

【境小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	40人	28人	30人	28人	30人	28人	26人	27人	27人	27人	26人	24人	25人	25人 (1)
2年生	40人	37人	28人	30人	28人	30人	28人	26人	27人	27人	27人	26人	24人	25人 (1)
3年生	43人	40人	37人	28人	30人	28人	30人	28人	26人	27人	26人	26人	25人	24人 (1)
4年生	41人	38人	40人	36人	28人	29人	28人	29人	28人	25人	26人	26人	26人	25人 (1)
5年生	41人	42人	39人	41人	37人	28人	28人	29人	30人	29人	25人	27人	27人	27人 (1)
6年生	40人	38人	41人	38人	40人	36人	27人	27人	28人	29人	28人	25人	26人	26人 (1)
合 計	245人	223人	215人	201人	193人	179人	167人	166人	166人	164人	158人	154人	153人	152人 (6)

【上道小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	45人	34人	46人	40人	39人	34人	43人	37人	37人	37人	37人	36人	35人	36人 (2)
2年生	44人	46人	34人	46人	40人	39人	34人	43人	37人	37人	37人	37人	36人	35人 (2)
3年生	48人	43人	46人	34人	46人	40人	39人	34人	42人	37人	37人	37人	37人	35人 (2)
4年生	43人	49人	43人	46人	34人	45人	39人	39人	34人	42人	37人	36人	37人	36人 (2)
5年生	41人	44人	48人	43人	45人	33人	45人	39人	38人	33人	42人	36人	36人	36人 (2)
6年生	40人	41人	45人	49人	44人	46人	34人	46人	40人	39人	34人	43人	37人	37人 (2)
合 計	261人	257人	262人	258人	248人	237人	234人	238人	228人	225人	224人	225人	218人	215人 (12)

【余子小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	36人	43人	35人	38人	33人	29人	39人	35人	34人	33人	33人	34人	34人	33人 (2)
2年生	39人	39人	43人	35人	38人	33人	29人	39人	35人	34人	33人	33人	34人	34人 (2)
3年生	50人	40人	41人	45人	36人	39人	35人	30人	41人	36人	36人	35人	35人	35人 (2)
4年生	35人	58人	40人	41人	44人	35人	38人	35人	30人	41人	36人	36人	35人	34人 (2)
5年生	47人	43人	58人	41人	41人	45人	36人	39人	36人	30人	41人	36人	36人	35人 (2)
6年生	52人	51人	43人	59人	41人	41人	45人	36人	39人	36人	30人	41人	36人	36人 (2)
合 計	259人	274人	260人	259人	233人	222人	222人	214人	215人	210人	209人	215人	210人	207人 (12)

【中浜小学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	45人	46人	40人	33人	45人	38人	42人	36人	36人	35人	34人	34人	33人	31人 (2)
2年生	43人	44人	45人	39人	32人	44人	37人	41人	36人	35人	34人	33人	33人	32人 (2)
3年生	51人	44人	43人	44人	37人	31人	43人	36人	40人	34人	34人	33人	32人	31人 (2)
4年生	42人	53人	42人	41人	41人	35人	30人	41人	35人	39人	33人	33人	32人	31人 (2)
5年生	57人	45人	53人	43人	41人	42人	36人	30人	41人	35人	39人	34人	33人	33人 (2)
6年生	52人	56人	45人	53人	43人	41人	42人	36人	30人	41人	35人	39人	34人	33人 (2)
合 計	290人	288人	268人	253人	239人	231人	230人	220人	218人	219人	209人	206人	197人	191人 (12)

【第一中学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	91人	84人	79人	85人	87人	83人	82人	61人	74人	68人	68人	62人	68人	63人 (2)
2年生	88人	92人	85人	80人	87人	88人	84人	83人	63人	74人	68人	69人	63人	69人 (2)
3年生	87人	89人	93人	86人	81人	88人	89人	85人	84人	64人	75人	70人	70人	63人 (2)
合 計	266人	265人	257人	251人	255人	259人	255人	229人	221人	206人	211人	201人	201人	195人 (6)

【第二中学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	77人	108人	106人	87人	112人	82人	83人	87人	72人	69人	77人	65人	80人	69人 (3)
2年生	92人	83人	107人	105人	86人	109人	81人	81人	85人	70人	67人	75人	63人	78人 (3)
3年生	104人	98人	83人	107人	104人	85人	109人	80人	81人	85人	70人	67人	74人	63人 (2)
合 計	273人	289人	296人	299人	302人	276人	273人	248人	238人	224人	214人	207人	217人	210人 (8)

【第三中学校】

学 年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年	令和16年	令和17年	令和18年	令和19年	令和20年
1年生	96人	86人	85人	93人	72人	81人	69人	79人	58人	64人	57人	55人	49人	56人 (2)
2年生	78人	101人	84人	84人	92人	71人	80人	68人	77人	57人	63人	56人	54人	48人 (2)
3年生	92人	78人	101人	84人	84人	92人	71人	80人	68人	78人	57人	63人	57人	54人 (2)
合 計	266人	265人	270人	261人	248人	244人	220人	227人	203人	199人	177人	174人	160人	158人 (6)

5. 学校再編スケジュール

年 度	検 討 内 容
令和5年度 (2023年度)	出生数減、施設の老朽化等による再編構想 子どものウェルビーイング最優先
構想スタート期	
令和6年度 (2024年度)	教職員・PTA意見聴取熟議 児童生徒アンケート 熟議意見及びアンケートの分析
意見聴取熟議期	
令和7年度 (2025年度)	先進地視察 今までに出た意見の集約 素案の策定
再編素案策定期	市民熟議
令和8年度 (2026年度)	有識者による策定機関（学校再編計画策定委員会（仮称））立ち上げ 委員会での検討会議（年3回） パブリックコメント
策定機関検討期	市民熟議
令和9年度 (2027年度)	境港市校区審議会への諮問・答申 境港市学校再編計画 策定 議会報告
再編計画策定期	市民への周知
令和10年度～ (2028年度～)	建設計画 複合型施設の検討（児童クラブ、保幼子育て支援など） 教育課程の編成、ソフト面の検討
建設計画策定期	用地買収
令和16年度～ (2034年度～)	基本設計 実施設計 建設
新しい学校建設期	
令和20年度～ (2038年度～)	教育課程の決定 通学バスの運用 管理職配置検討
新しい学校始動期	

6. 学校再編計画

「3. 学校再編の意向」から、学校再編にあたっては、以下の事項を念頭に置いて、検討を進める必要があると考えます。

- ・市の目指すべき方向性を明確にする。
- ・統合する場合は、児童生徒の通学手段（スクールバス等）を検討する。
- ・今後の学校整備にかかる予算の推移
- ・地域とつながる学校
- ・多様な児童生徒への支援

学校再編にあたり、現在検討している小中学校と義務教育学校の比較については以下のとおりです。小中一貫校は、あくまで小学校と中学校が連携している形態となっています。一方、義務教育学校は、1つの学校として、より一体的で柔軟な教育体制が築けるようになっています。

また、施設の形態としては、全国的には小中一貫校は施設分離型、義務教育学校は施設一体型が多い状況となっています。

小中一貫校と義務教育学校の比較

項 目	小中一貫校	義務教育学校
制度	「小学校」と「中学校」が連携して、9年間の一貫教育を行う。	「小学校」と「中学校」の課程を一体的に編成。
学校運営	「小学校」と「中学校」はそれぞれ独立した別々の学校。校長や教員、予算も別々。	1つの学校として運営されるため、校長は1人、教職員も一体的に編成。
学年区分	小学校6年間と中学校3年間の既存の区切りが基本。	6－3制に縛られない柔軟な学年区分（4－3－2制、5－4制など）が導入できる。
教育活動	小学校と中学校それぞれが独立した学校のため、運営の一貫性を保つには工夫が必要。	9年間を見通した系統的・一貫性のあるカリキュラムを編成できる。

施設形態

①施設一体型	同一の校舎内で、小学校及び中学校で一貫した運営・教育を行う。
②施設隣接型	隣接する小学校及び中学校で一貫した教育を行う。
③施設分離型	離れた場所にある小学校及び中学校で一貫した教育を行う。

小中一貫校又は義務教育学校になった場合のメリットとしては、「中１の壁の緩和・解消」、「系統性を意識した小中一貫教育」、「異学年交流による精神的な発達」などあります。ただ、デメリットとしては、「リーダーシップや自主性を養う機会が減る（小学校高学年の時期）」、「９年間で人間関係が固定化しやすい」などがあります。

小中一貫校（義務教育学校）のメリット・デメリット

メリット	デメリット
①小中ギャップの緩和・解消 小学校と中学校間の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中１ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待される。	①小学校卒業の達成感の喪失 前期課程修了時に修了式を行うことで卒業式を代替する場合があることから、学校が変わる卒業式と単に６年生から７年生に学年が上がる修了式では達成感に差が出るのが考えられる。子どもにとって１つの区切りを超え、成長したと実感できる機会が減ってしまい、中学校の新鮮さが弱まる恐れがある。
②系統性・連続性を意識した小中一貫教育 小学校と中学校で学ぶ内容の系統図を作成するなど、系統性や連続性に配慮した教育カリキュラムの作成や、指導を行うことが可能となり、理解度の向上が期待できる。その他にも、教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序・指導内容を入替えたり、児童生徒の理解が難しくつまづき易い内容は、後の学年でも繰り返し指導をするなどの工夫が可能となる。	②リーダーシップや自主性を養う機会の減少 高学年となると、学校行事などにおいて重要な立場を担うことが多いため、リーダーシップや自主性が養われる。小学校であれば高学年の５年生や６年生、中学校であれば３年生の時期が該当する。しかし、義務教育学校では、小学校段階の５年生や６年生が中学年となり、リーダーシップや自主性を養う機会が減ってしまう可能性がある。
③異学年交流による精神的な発達 １年生から９年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される。異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される。	③学年数・学級数の増加による施設利用頻度の減少 同じ施設で義務教育学校を実施した場合には、学年数が中学校の３年あるいは小学校の６年から９年になり学級数が増加することが想定される。そのため、学校の体育館、運動場、プールなどの施設・設備が１つの場合、スケジュールの調整が難しくなり、利用頻度が減ってしまう可能性がある。また、休み時間に低学年と高学年が一緒に遊ぶと、身体能力の差によって危険が生じる場合がある。
④継続的な生徒に対する指導 小学校と中学校が１つの学校となり、９年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個性に応じたきめ細やかな丁寧な生徒指導が可能となる。	

「２．小中学校の現状」や「４．児童生徒数の将来推計」から令和20年には、市内の全ての小学校で各学年１クラスとなることが予想され、クラス替えが困難となり人間関係の固定化が懸念されます。世界とつながるグローバル社会の中で、自己肯定感を持ち生き抜いていくことや、感受性の豊かな学童期から青年期までに多様な価値観に触れ、自分の考え方や表現する力を身に着けていくことは、子どもたちに今後強く求められる姿でもあります。本市では、生まれ育った郷土を愛し、自らの幸福感（ウェルビーイング）を実現していくための学校づくりを、地域とともに展開してきました。開かれた教育課程を実現し、地域とともにある学校づくりは、子どもたちの生活学習環境に安心と安全を提供し、地域の活力にもなってきました。

学校再編については、その強みを生かしながら更なる地域とのより良い関係を構築し、社会の変化に応じた初期再編構想を令和５年度に４つ（①分離型小中一貫校の継続、②３つの中学校区の一体型小中一貫校又は義務教育学校、③２つの中学校区（南北）の一体型義務教育学校、④小学校６校、中学校１校の分離型小中一貫校）を示し、検討を進めてきました。その後、地域や関係する者から意見を聞き、先進地の視察等を行い、本市の子どもたちの成長に適した学校の形を模索する中で、絞り込んだ素案として、次の２つの案を提示します。

《案１》

新たに３つの義務教育学校をつくる

児童生徒数	550～600人／校（令和20年推計より） ※１学年あたり61～67人 ⇒ ２～３学級
校 区	現在の中学校区
場 所	一中校区⇒未定、二中校区⇒二中（増設）、三中校区⇒三中（増設）
課 題	（１）通学手段 ⇒ スクールバスの導入 （２）第一中学校の場所 ⇒ 新用地の買収

《案２》

新たに２つの義務教育学校をつくる

児童生徒数	800～850人／校（令和20年推計より） ※１学年あたり89～95人 ⇒ ３～４学級
校 区	未定
場 所	１つは未定、１つは二中（増設）
課 題	（１）通学手段 ⇒ スクールバスの導入 （２）校区 ⇒ 校区割をどうするのか検討

いずれの案も「義務教育学校」を選んだのは、（１）中国地方の都市の中で、最も小さい市であること、（２）山や谷、川など地域の交流を妨げる可能性を帯びた自然環境が少ない環境にあること、（３）培ってきたコミュニティ・スクールでの取り組みを基盤とし、異学年との交流や地域とのかかわりを重視したこと、（４）中一ギャップの解消で子どもたちにとって心理的安全性の確保ができること、（５）教職員にとっては、教育課程の整合性をより高められ、９年間の一貫した教育の推進ができることなどのメリットが考えられるからです。

また、学校としての機能以外にも、地域住民のコミュニティ（広場）としての役割、市役所相談業務の分室化、高齢者世帯への食の提供など、今までにはない多目的な行政サービスへの可能性を帯びた「地域とともにある学校」の導入こそが、未来の境港市にとって、魅力ある教育の実現につながると考えているからです。

なお、引き続き、本市の今後の人口の変動を注視し、令和10年度以降に予定している建設計画を策定する際には、そのときの児童・生徒数の将来推計から再編の形が変更する場合があります。

《参考資料》

建設費用の目安と事例

国土交通省の統計によると、令和6年に新設された「教育・学習支援業用建築物（学校教育用）建物」の全国平均建設費用は、1棟あたり約35.9億円（132万円／坪）です。

ただし、これは学校種別全体の平均であり、義務教育学校個別の平均ではありません。

義務教育学校の具体的な建設事例では、以下のような建設費となっています。

○福山市 想青学園 校舎 34.2億円（令和3年度）

○松江市 湖北学園 校舎 32.6億円（概算）